

SCO-792 の臨床第二相試験に関する論文を発表:SCO-792 は 2 型糖尿病およびアルブミン尿を呈する患者において良好な安全性および忍容性を示し、尿中アルブミン/クレアチニン比(UACR)を低下させる可能性がある

株式会社スコヒアファーマは SCO-792 の第 2 相試験成績を「*Kidney International Reports*」で報告しました。同報告はオンラインで公開されています。

論文名

An exploratory randomized trial of SCO-792, an enteropeptidase inhibitor, in patients with type 2 diabetes and albuminuria

<https://doi.org/10.1016/j.ekir.2022.10.006>

血漿アミノ酸濃度の上昇は、糸球体濾過量(GFR)を過剰に増加させることで腎機能に対してネガティブな作用を与えていると考えられます。このことから、腸管からのアミノ酸吸収を阻害することが腎機能障害患者において治療効果を発揮することが期待されます。

我々のチームは、探索的な第 2 相試験として、レニン・アンジオテンシン系阻害薬および糖尿病治療薬の投与を受けている 2 型糖尿病およびアルブミン尿を呈する患者を対象に、腸管からのアミノ酸吸収を阻害できるエンテロペプチダーゼ阻害薬である SCO-792 の安全性および有効性を探索的に評価しました。今回の研究では、2 型糖尿病を有し、尿中アルブミン-クレアチニン比(UACR)が 200~5,000 mg/g、eGFR が 30 mL/min/1.73 m²以上の 72 名の患者を対象としました。患者は、プラセボ(n=15)、SCO-792 500 mg 1 日 1 回投与(SCO-792 QD、n=29)、SCO-792 500 mg 1 日 3 回投与(SCO-792 TID、n=28)にランダムに割り当てられ 12 週間の投薬を受けました。主要評価項目として、安全性および忍容性とともベースラインからの UACR の変化を評価しました。

その結果、SCO-792 は 1,500 mg/day および 12 週間までの安全性と忍容性が確認されました。UACR のベースラインからの変化は、プラセボで-14%(P=0.4407)、SCO-792 QD で-27%(P=0.0271)、SCO-792 TID で-28%(P=0.0211)でした。

以上から、SCO-792 の投与は 2 型糖尿病およびアルブミン尿を呈する患者において、ベースラインからの UACR の減少に関与する可能性があります。今回の結果が治療学的に意味のある結果であるかどうかは、さらなる臨床試験による確認が必要です。



当社は SCO-792 の全世界における開発および商業化におけるパートナーを探しています。

【株式会社スコヒアファーマについて】

株式会社スコヒアファーマは、循環、代謝・腎等の生活習慣病領域のうち高いアンメットニーズが残る疾患に対する医薬品の創出にフォーカスする創薬系バイオベンチャーです。当社の特徴は、潤沢な研究開発パイプラインと、化合物創製・薬効評価・臨床開発等の各創薬プロセスにおいて医薬品開発のトラックレコードを持つ研究開発チームにあります。当社の詳細情報につきましては、<https://www.scohia.com>をご参照ください。

以上

本件に関するお問い合わせ先:

株式会社スコヒアファーマ:

info@scohia.com